

令和 2 年度

公益財団法人いわき市教育文化事業団予算書
(抜粋)

自 令和 2 年 4 月 1 日

至 令和 3 年 3 月 31 日

公益財団法人いわき市教育文化事業団

目 次

	ページ
・ 事 業 計 画 書 -----	1
・ 収 支 予 算 書 -----	11

事業計画書

令和 2 年 度 事 業 計 画

昨年、「平成」から「令和」への改元が行われ、新しい時代が幕を開けました。本財団といたしましては、これまで培ってきた知識や経験を十分に活かしながら、基本理念や基本方針に基づき、令和の新時代を捉え安定した事業運営に努めて参ります。

文化財部門では、ここ数年、いわき市内における復興事業関連の発掘調査業務が減少傾向にあることから、関係機関、団体との情報交換等を経て、新たな市外自治体における発掘調査業務を受託し、業務量の確保を図ったところです。

また、施設部門では、いわき市生涯学習プラザが引き続き新たな5年間の指定管理業務が始まり、合計で8施設の指定管理者として管理運営業務を担うこととなります。施設の安全確保はもとより、これまでの事業実績に対する評価検証なども適切に行いながら、市民ニーズを的確に反映した各種事業の推進を図って参ります。

基本理念

本財団は、埋蔵文化財の調査及び研究を行うとともに、教育水準の向上及び文化の発展に寄与するために、人の営みや地域に根ざした歴史・文化を正しく継承、発信し、新たなまちづくりに活かしていくことを目指します。

今後とも、公益法人としての社会的責任を強く自覚し、行政や地域団体等との「連携・協働」の強化を図りながら、社会ニーズを捉えた管理運営を誠実に実行します。

基本方針

- ① 教育文化の振興とまちづくりへの貢献
 - ・地域の歴史や文化を知る機会をつくり、市民にとって魅力ある運営を行います。
 - ・蓄積してきた調査・研究成果を提供し、学校教育や社会教育などに貢献します。
- ② 市民に愛され親しまれる施設の確立
 - ・多様化・高度化する市民ニーズを捉え、市民が内外へ誇れる施設を目指します。
 - ・地域の歴史や伝統を体験・学習できる施設として、機能を十分に発揮します。
- ③ 時代の変化に対応できる運営体質の構築
 - ・施設の設置趣旨に沿った事業を実行するため、適切に専門職員を配置します。
 - ・幅広く柔軟な管理運営のために、研修を充実させ、人材の育成強化を図ります。

1 文化財部門(公1 埋蔵文化財の発掘調査事業)

(1) 基本方針

当該年度の事業は、開発行為に伴う試掘・確認調査のほかに市内1件、市外では伊達市、本宮市、檜葉町の3件を予定しています。また、史跡指定のための範囲確認調査1件を予定しています。

発掘調査終了後に行われる整理等作業、報告書作成・刊行作業は、双葉郡内の檜葉町、大熊町、広野町の3件、東白川郡内の矢祭町1件を含む7件を予定しています。

そのほかに、令和3年度報告書刊行に向けて、磐城平城に関する文献・地図等による検証を目的とする調査を予定しています。

事業実施に当たっては、発掘調査等における安全な作業環境の確保と事故の防止、事業の円滑な実施に努めるとともに、調査成果について公開・活用を図ります。

(2) 事業計画

No.	事業名	委託者	遺跡名	事業内容
1	市内遺跡発掘調査	いわき市教育委員会 (文化振興課)	市内一円	試掘・確認調査 整理、報告書作成
2	市内遺跡発掘調査 (範囲確認調査)	いわき市教育委員会 (文化振興課)	梅ノ作瓦窯跡	範囲確認調査
3	中心市街地活性化広場 公園整備事業	いわき市 (公園緑地課)	平城跡・旧城 跡遺跡	発掘調査
4	伊達小学校改築工事	伊達市	長倉館跡	発掘調査
5	市町村合併支援道路整備事業(本宮三春線高木工区)	本宮市	大学館跡	発掘調査
6	町道馬場前線改良工事	檜葉町 (檜葉町建設課)	馬場前遺跡	発掘調査
7	埋蔵文化財発掘出土品 等整理事業	いわき市教育委員会 (文化振興課)	山下谷遺跡 小浜西ノ作 遺跡	整理 報告書作成・刊行
8	餓鬼堂地区埋蔵文化財 発掘調査事業	いわき市 (林務課)	餓鬼堂横穴群	整理 報告書作成
9	基幹農道整備事業	矢祭町 (矢祭町教育委員会)	割目遺跡	整理 報告書作成
10	令和元年度町内遺跡試 掘調査整理作業業務	大熊町 (大熊町教育委員会)	町内一円	整理
11	井出上ノ原遺跡整理・ 報告書作成業務	檜葉町 (檜葉町教育委員会)	井出上ノ原 遺跡	整理 報告書作成
12	町道改良工事	広野町 (広野町教育委員会)	東町VI遺跡	整理 報告書作成
13	磐城平城文献等調査 業務	いわき市 (文化振興課)	磐城平城	文献・現地調査 古文書等調査 内藤家文書調査

2 施設部門(公2 教育文化施設の管理運営事業)

(1) 基本方針

各施設は、指定管理者の立場を踏まえ、自らの責任と判断によって、施設の設置目的や機能に基づいた適正な管理運営を行い、公共施設の持つ意義を考え、利用者への公平かつ平等なサービスの提供に努めるとともに、利用者の意見を適宜把握しながら、質の高い事業を展開することによって、市民へのサービス向上に努めるとともに、施設の利用促進を図ります。

また、利用者の安全確保を最優先に、施設設備の維持管理に当たっては常に細心の注意を払い、快適で利便性の高い施設環境を確保するため、市・県と連携しながら施設設備の効果的な維持・補修を計画します。

(2) 事業計画

ア いわき市立草野心平記念文学館及びいわき市草野心平生家

文学館では、春、夏、秋、冬の計4回の企画展を開催します。

春の企画展「草野心平の詩 天へのまなざし」では、心平の天の詩をあらためて取り上げ、自筆原稿、随筆、書籍などの関連資料を紹介しながら、作品の奥深い魅力にあらためて気づくきっかけとします。

夏の企画展「没後90年 童謡詩人金子みすゞの世界」では、「幻の童謡詩人」とも呼ばれたみすゞの生涯と作品を紹介するとともに、いわきゆかりの童謡詩人で、みすゞと同時代に作品を発表していた島田忠夫の作品にも光をあてます。

秋の企画展「草野心平と棟方志功 ～『わだばゴッホになる』」では、志功と心平の共著作品や志功による「平市民会館・緞帳原画」を紹介するとともに、その交友を心平の随筆や書簡、そして200回以上の記述が見られる心平の日記などからたどります。

冬の企画展「映画館の記憶 聚楽館といわきの映画文化」では、明治から平成にかけて営業していた聚楽館の関連資料から、上映した映画のパンフレット、広報用資料、そして営業の様子を記録した写真などを展覧し、当時のいわきの映画文化とともに紹介します。あわせて中学時代の心平も歩いた平の街並の記憶をたどります。

また、所蔵品展として、いわきゆかりの文学者を紹介するスポット展示を年4回、開催します。

さらに、文学関連をはじめとした多彩な事業を展開します。文芸講演会、詩人講座では活躍中の方を講師に招いて講演会を開催し、文学散歩では、いわきゆかりの文学者についての理解を深めるきっかけを提供します。また、アートパフォーマンス事業では、詩の朗読会、7、8月の土曜日の夜間開館時の演奏会など幅広い芸術活動にふれる機会を提供します。

生家では、「心平誕生月の記念朗読会」、没後33回忌「心平忌」・第27回「心平を語る会」、「草野天平の集い」などを開催します。

イ いわき市暮らしの伝承郷

常設展示事業は、既存の展示を基本に、資料の差し替えや追加、情報量の増加な

ど、充実した展示とし、休憩コーナーにて収蔵資料等を紹介するロビー展を実施し、来園者サービス向上に努めます。

企画展示事業は、2回実施します。4～6月の「古民家模型展パート5—大内宿一—」では、菅野清八氏制作の精巧な古民家模型により、下郷町大内宿の町並みを再現展示します。7月～9月の「収蔵品展—灯りの道具—」では、伝承郷収蔵品から、照明として使用された道具を展示します。

古民家維持管理事業は、古民家を中心とした景観や昔の暮らしの復元・展示を通して、生活文化の保存・伝承を図るとともに、来園者に癒やしの空間を提供します。

調査研究事業は、市内で行われている祭礼や年中行事、民具調査などを実施します。

講演会等事業は、もの作りを通して伝統文化や技術を伝える取り組みについて、制作者から話を伺う「伝承郷講座」を2回開催します。

資料整理等事業は、収蔵している資料の適切な管理を実施し、資料整理については、民具等の寄贈や企画展準備にあわせて、効果的な実施を心懸けます。

体験学習事業は、篠笛やハーモニカの音色に触れる演奏会のほか、「けん玉道場」や「正月飾り作り」などを実施し、昔遊びや伝統技術を体験し伝承する機会を提供します。

年中行事事業は、近年見られなくなった「端午の節句飾り」や「餅花飾り」、「蚊帳吊り」などを実施し、日本人が培ってきた祈りと生活の知恵を来園者に紹介します。

ボランティア育成事業は、生涯学習活動の一環として、積極的に推進します。団体来園時のガイドボランティアには、資質向上を図るため、毎月1回、意見交換・勉強会等を実施します。園内民家ゾーンで野菜を栽培する花と野菜作りボランティアには、園内展示の趣旨に沿った栽培をするよう、適宜、指導と助言を行います。囲炉裏の火焚き、年中行事補助等を行う民家維持管理ボランティアは、活動の際に注意事項を確認し、事故・怪我のないよう努めます。

ウ いわき市勿来関文学歴史館

指定管理期間の3年次となります。

展示会は4回実施します。4月～7月に「斎藤茂吉と長塚節～勿来の関を訪れた歌人たち～」展、7月～9月に元いわき応援大使佐藤安太氏を紹介する「佐藤安太～いわきの生んだおもちや王」展、9月～11月に指定文化財の刀剣を紹介する「刀・刀・刀～いわきの刀剣～」展、1～4月に明治時代の日本画家「鈴木寿山～いわきの近代画家～」展を開催します。

講座や講演会は、それぞれの企画展に合わせて展示内容をさらに深く理解できるテーマを選定し開催します。また、会期中毎月、学芸員によるギャラリートークを行ないます。

体験事業は、夏休み・冬休みにあわせてワークショップを開催します。

スポット展示は11月～1月に、泉藩の郡奉行松井秀簡を紹介する「松井秀簡」展を開催します。

さらには、いわき市南部の文化・歴史を発信する拠点施設として、マスコミへの

細かな情報提供や、ホームページ等SNSの随時更新などの情報発信に努めます。
あわせて、隣接する体験学習施設「吹風殿」の開錠施錠業務を実施します。

エ いわき市アンモナイトセンター

令和2年度は前年度に引き続き常設展示並びに体験発掘を主たる事業とし、その他の各種事業についても併せて展開します。当施設の基幹事業である体験発掘事業については、個人や家族を対象とした一般体験発掘として毎週土・日曜日に実施するほか、5月の連休及び8月のお盆休み、親子自然探訪教室を実施しない三連休においても特別実施日として開催します。また、学校等の団体を対象とした特別体験発掘は、原則として一般体験発掘を実施しない開館日に実施します。

企画展事業は、小・中学校の夏休み期間においては「双葉層群のサメ～海の支配者たち」、及び冬休み期間においては「草野心平と岩石～詩人と地質」を開催し、双葉層群を中心とした本市から産出する化石や地質学の魅力を伝え、利用者の自由研究等に対するニーズ等にも資する展示を実施します。

親子自然探訪教室事業は、祝日を中心に年6回実施します。親子を対象とし、古生物学以外にも自然科学分野全般という広範なテーマでの体験学習カリキュラムの提供を通し、理科への興味と知識を育みます。

公開シンポジウム（化石講演会）は、例年と同様に久之浜中学校を会場として9月に実施します。双葉層群に関連したテーマ（化石哺乳類）に関する専門講師を招聘し、いわき地域の化石（中生代から新生代）についてのご講演をいただくことで地域の小・中学生や一般市民に化石研究の魅力を伝えます。

これらに加え、地質学・古生物学に特化した博物館であるという特色を生かし、要請に応じて学校や各種イベントに出張し、講演やミニ体験発掘などの学習プログラムを提供する出前講座を実施します。また、地域の活動・イベントを通して地域社会とのさらなる連携強化に努めるとともに、他館との連携、収蔵標本の登録・研究についても積極的に推進する事で当館の魅力と学術的付加価値の創出へとつなげます。

オ いわき市考古資料館

企画展は、5～7月に第1回企画展「令和元年度発掘速報展」、9～12月上旬に第2回企画展前期「いわきの弥生時代を探る『コメづくりの始まり』」、12月下旬～4月に第2回企画展後期「いわきの弥生時代を探る『新たな墓の出現』」、このほか、7～9月に特別展「個人および学校所蔵の考古資料(仮称)」を開催します。あわせて、それぞれの企画展の理解を深めていただくために、遺跡報告会、展示解説会、講演会、探訪会等を開催します。

講座は、成人を対象に弥生時代のいわきをテーマとした「いわきの考古学講座」を全6回、夏休みには親子を対象とした「自由研究に挑戦しよう!!」、さらには質の高いボランティアを養成する「ボランティア養成講座」を3回開催します。

体験学習会は、5月の「ゴールデンウィーク体験学習会」・8月の「いわきキッズミュージアム」・11月の「古代まつり」のほか、ゴールデンウィーク、春・夏・冬休みには「勾玉づくり体験会」など合わせて22回開催します。

今年度も、事業内容のさらなる充実を図るとともに、歴史に関する問合せや資料の貸出及び団体・個人への解説や体験指導、また、要請により館外へ出向いて実施する出前講座等、館利用の様々な要望に積極的に応え、市民の満足度を高めてまいります。

カ 福島県いわき海浜自然の家

恵まれた自然環境の中でおこなうさまざまな活動を通して、青少年の心身の健全な育成を図るとともに、県民に多様で魅力ある体験活動の場を提供することに努めてまいります。また、利用者の安全を最優先とし、安全衛生の管理と施設環境づくりを徹底しておこないます。

主催事業では、子どもから大人まで広く県民に施設を開放する「オープンデー」を春と秋の2回開催します。また、市内の音楽家による「森の音楽会」や、小学生を対象とした「ふれあいオータムキャンプ」を開催します。

研修事業では、学校教育団体および社会教育団体の指導者を対象とした事前研修会を4・5月に開催、ボランティア活動希望者が体験活動を支援するために必要な知識や技能等を学ぶ「ボランティア養成講座」を年4回開催します。

また、不登校児童生徒を対象に自然体験活動や交流体験の機会を提供する「心のケアが必要（不登校等）な子どもたちを対象にした事業」や、運動不足の解消や体力向上を促すことを目的とした体を動かすプログラムを提供する「未来キッズ生き生き事業」などを実施します。

諸課題については、所員全員が常に情報を共有し、スピード感をもってその解決にあたり、県民に親しまれる施設づくりに努めてまいります

キ いわき市生涯学習プラザ

令和2年度は、指定管理受託期間5カ年の初年度にあたります。引き続き生涯学習の拠点施設としての役割を踏まえた事業を推進し、多様な市民ニーズに応えられるよう努めてまいります。

プラザが企画し運営する主催講座および、サークルやITリーダーが自主的に企画・運営する「サークル企画講座」を年間50講座実施いたします。また、ITボランティアや子育て支援ボランティアによる「ボランティア活用事業」は、参加者・利用者から高い評価を得ており、今後も継続して実施いたします。市民ニーズが高く応募者が多い「パソコン実用講座」は、引き続き内容の充実を図り開催してまいります。また、生涯学習推進計画の重点項目である子育て支援のための、親子で参加できる講座の充実を図ってまいります。

共催事業としては、(一社)茶道裏千家淡交会いわき支部との「お茶会」、いわき華道連合会との「生け花展」などのほか、各種団体や社会教育施設との連携事業も積極的に開催してまいります。

さらに、全市的な事業の一環として、第16回生涯学習フェスティバルを開催し、市民交流の場として一層の充実を図ってまいります。

また、市民大学や生涯学習フェスティバル支援など、生涯学習支援ボランティアの会と連携した効率的な事業運営を実施してまいります。

3 管理部門(法人会計)

(1) 基本方針

財団事務局は、公益財団法人や指定管理者としての立場を踏まえ、本財団が担う使命を職員及び各施設が一体となって遂行していけるよう、運営の方向性を明確に示しながら、各施設と連絡調整をおこない、財団全体の事業推進をサポートしていきます。

さらに、財団運営の執行にあたり、理事会・評議員会の開催を適切におこない、人事労務・事務局事務を執行し、収支相償に留意しながら、円滑な財団運営を図っていきます。

また、財団運営を支える人材育成を着実に進めるために、効果的な研修計画を作成し、実施していきます。

(2) 事業計画

ア 組織運営

円滑な組織運営を図るため、法令等の改正に合わせた就業規則等諸規程の整備及び適切な運用を図ります。また、財源の効率的な執行を推進し、収支相償の原則を遵守します。

さらに、施設長会議や事務担当者会議等を随時開催することにより、情報等の共有及び問題点の解決を図ります。

イ 人材育成

職員の資質向上を目指し、ふくしま自治研修センターによる基本研修への派遣をはじめ、専門的な研修会や各種講習会への参加、個人研究等に対する自主研修制度の利用促進を図ります。成果については、「研究紀要」を刊行することにより、市民に還元します。

ウ 情報発信

ホームページ等による本財団の財務諸表の公開をはじめ、各施設の事業計画等の迅速な情報提供を図るとともに、施設の各種事業については、共同チラシ等を発行し、案内・広報を図ります。

エ 啓発事業

好評である公民館や小・中学校、地域団体の要請による出前講座については、職員の専門性を生かし、積極的に実施していきます。

また、「たからものずかん」シリーズは、継続して刊行します。

4 職員に関する事項

(令和2年1月現在)

(1) 事務局

括弧内数字：兼務職員数 単位：名

区分	事務局長 同相当職	次長 同相当職	係長 同相当職	主任職	係員	嘱託 職員	日々雇用 職員	計
事務局	1	2	—	—	—	—	—	3
企画管理係	—	1	—	2	—	—	1	4
調査係	—	—	1 (1)	3	—	1	10	15 (1)
計	1	3	1 (1)	5	0	1	11	22 (1)

(2) 施設

区分	館長 所長	次長 同相当職	係長 同相当職	主任職	係員	嘱託 職員	日々雇用 職員	計
文学館	1	1	—	—	2	—	5	9
伝承郷	1	1	—	1	—	—	5	8
勿来関 文学歴史館	1	—	—	1	—	1	2	5
アンモナイト センター	1	—	—	—	1	1	3	6
考古資料館	1	—	(2)	(3)	—	—	2	3 (5)
いわき海浜 自然の家	1	2	1	3	—	1	10	18
生涯学習 プラザ	1	1	1	2	—	—	6	11
計	7	5	2 (2)	7 (3)	3	3	33	60 (5)

合計	8	8	3 (3)	12 (3)	3	4	44	82 (6)
----	---	---	----------	-----------	---	---	----	-----------

収 支 予 算 書

収 支 予 算 書

令和2年4月1日から令和3年3月31日まで

(単位千円)

科 目	当年度	前年度	増減	備 考
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
基本財産運用益 (A)	1	1	0	
基本財産受取利息	1	1	0	
事業収益 (B)	666,088	563,114	102,974	
文化財調査受託料	195,598	99,131	96,467	事業受託13件
施設指定管理料	455,031	448,648	6,383	施設8件
いわき市立草野心平記念文学館	76,053	75,073	980	
いわき市草野心平生家	3,254	3,224	30	
いわき市暮らしの伝承郷	51,056	49,420	1,636	
いわき市勿来関文学歴史館	35,798	36,323	△525	
いわき市アンモナイトセンター	26,147	25,256	891	
いわき市考古資料館	17,145	16,513	632	
福島県いわき海浜自然の家	149,482	148,002	1,480	
いわき市生涯学習プラザ	96,096	94,837	1,259	
施設事業受託料	9,095	9,024	71	事業受託5件
いわきヒューマンカレッジ	3,788	4,090	△302	
未来キッズ生き生き事業	3,650	3,650	0	
吹風殿開閉業務	328	284	44	
心のケアが必要な子ども対象事業	700	1,000	△300	
プラザアンケート調査事業	629	0	629	
施設利用料	6,322	6,067	255	施設1件
出版物頒布料	42	244	△202	
雑収益 (E)	710	600	110	
受取利息	5	5	0	
雑収益	705	595	110	
経常収益計 (F)	666,799	563,715	103,084	(A～E)
(2) 経常費用				
事業費 (G)	624,711	519,875	104,836	
給料手当	118,164	111,490	6,674	
賞与引当金繰入額	11,987	11,609	378	
賃金	158,999	111,917	47,082	
共済費	49,314	41,983	7,331	
報償費	6,059	6,086	△27	
旅費	11,848	4,193	7,655	
消耗品費	10,266	9,446	820	

科 目	当年度	前年度	増減	備 考
被服費	279	440	△161	
燃料費	8,378	9,173	△795	
食糧費	446	434	12	
印刷製本費	15,278	18,500	△3,222	
光熱水費	33,709	32,948	761	
修繕費	5,970	5,506	464	
医薬材料費	0	69	△69	
通信運搬費	6,545	6,110	435	
広告料	526	557	△31	
手数料	1,402	1,209	193	
保険料	1,245	1,284	△39	
委託料	91,524	82,838	8,686	
使用料及び賃借料	39,745	19,945	19,800	
工事請負費	3,538	660	2,878	
原材料費	302	231	71	
負担金	318	398	△80	
公租公課	34,754	26,606	8,148	
消耗什器備品費	1,120	218	902	
減価償却費	10,458	15,156	△4,698	
支払利息	2,537	869	1,668	
管理費	48,907	47,672	1,235	
報酬	399	399	0	
給料手当	20,827	21,713	△886	
賞与引当金繰入額	2,358	2,344	14	
賃金	3,944	3,816	128	
共済費	6,266	6,223	43	
報償費	260	248	12	
旅費	648	648	0	
交際費	80	80	0	
消耗品費	624	686	△62	
被服費	30	30	0	
燃料費	72	72	0	
食糧費	68	107	△39	
印刷製本費	932	2,869	△1,937	
光熱水費	125	150	△25	
修繕費	900	100	800	
通信運搬費	304	346	△42	
広告料	50	50	0	
手数料	440	560	△120	
保険料	60	60	0	
委託料	1,961	446	1,515	

科 目		当年度	前年度	増減	備 考
使用料及び賃借料		1,909	2,257	△348	
負担金		876	741	135	
補償費		38	38	0	
公租公課		4,648	3,189	1,459	
消耗什器備品費		1,088	500	588	
経常費用計	(I)	673,618	567,547	106,071	(G+H)
当期経常増減額	(J)	△6,819	△3,832	△2,987	(F-I)
2. 経常外増減の部					
(1) 経常外収益		0	0	0	
経常外収益計	(K)	0	0	0	
(2) 経常外費用		0	0	0	
経常外費用計	(L)	0	0	0	
当期経常外増減額	(M)	0	0	0	(K-L)
当期一般正味財産増減額	(N)	△6,819	△3,832	△2,987	(J+M)
一般正味財産期首残高	(O)	118,977	122,809	△3,832	
一般正味財産期末残高	(P)	112,158	118,977	△6,819	(N+O)
II 指定正味財産増減の部					
当期指定正味財産増減額	(Q)	0	0	0	
指定正味財産期首残高	(R)	10,000	10,000	0	
指定正味財産期末残高	(S)	10,000	10,000	0	(Q+R)
III 正味財産期末残高		122,158	128,977	△6,819	(P+S)

資金調達及び設備投資の見込について

令和2年4月1日から令和3年3月31日まで

1 資金調達の見込について

借入の予定		<input type="checkbox"/>	あり	<input checked="" type="checkbox"/>	なし
事業番号	借入先	金額		用途	

2 設備投資の見込について

設備投資の予定		<input type="checkbox"/>	あり	<input checked="" type="checkbox"/>	なし
事業番号	設備投資の内容	支出又は収入の 予定額		資金調達方法 又は取得資金の用途	